

乳腺外科カリキュラム

I. 目的と特徴

乳腺外科研修では徳島大学病院卒後研修プログラム中の経験すべき疾患のうち乳腺疾患の診断、病態、治療法を理解し、実行することを目的としています。また、指導医とともに患者を担当し、医療を通して、医療人としての基本姿勢・態度を修得します。

II. 研修責任者

丹黒 章 教授 (日本外科学会指導医、乳腺専門医、食道外科認定医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本癌治療学会臨床試験登録医、日本内視鏡外科学会技術認定医、臨床腫瘍学会暫定指導医)

III. 運営指導体制および指導医数

教授 1名、助教 1名、医員 2名。日本乳癌学会 専門医 1名。指導医講習会受講者数は2名です。研修医 1名につき 1人の指導医が選任され、入院患者の診療を指導医とともに行います。

IV. 臨床実績

外来患者数は1日に50-80人、化学療法は週に約20人、手術件数は年間約180件行っています。乳癌の手術のうち、乳房温存率は76%で、センチネルリンパ節生検を75%に行っています。

V. 研修目標

一般目標 (GIO) :

主治医として乳腺外科領域の基礎的臨床能力を持ち、乳腺疾患患者の検査結果の評価、診断、治療方針決定が適切に行える。必要な画像診断能力や基本的外科手技を習得する。臨床と並行しながら各種文献より知識を得ることで理論的知識も深める。

行動目標 (SBO) :

- 1) 乳腺疾患における系統的診断と鑑別診断
- 2) 治療計画の立案
- 3) 担当患者ごとの臨床的問題点の洗い出しと解決
- 4) 患者・家族への手術前・検査前説明および術後説明への参加
- 5) 検査・手術
- 6) 臨床カンファレンスへの参加と担当患者の症例提示

- 7) 担当退院患者の入院時サマリー作成
- 8) 乳腺疾患に関する論文の抄読

VI. 研修内容

- 1) 触診による評価
- 2) マンモグラフィ、超音波、CT、MRIなどの画像評価
- 3) CTリンパ管造影の手技
- 4) 超音波ガイド下吸引細胞診、針生検、マンモトームによる組織採取手技の習得
- 5) 手術手技の習得

VII. 研修スケジュール

受け持ち患者の検査、治療には責任をもってあたり、疾患カンファレンス、教授回診で症例提示を行います。

カンファレンス：術前症例 火曜日 18時～

術後症例 木曜日 7時30分～

画像、病理カンファレンス 金曜日7時30分～

教授回診：木曜日術後カンファレンス後

グループ回診：月曜日～金曜日の17時～

VIII. 評価法

研修責任者と指導医が研修態度、症例提示、患者さん・家族・スタッフへの対応、知識・技術の習得度などを総合的に評価し、研修終了時にフィードバックをします。最終的評価はオンライン臨床研修評価システム（EPOC）を用いて行います。